

# ニシマカジキ 大西洋

White marlin, *Tetrapturus albidus*



**管理・関係機関**

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

**最近一年間の動き**

2012年5月にICCATにおいて資源評価が実施され、資源は乱獲状態ではあるが、現在は漁獲圧も減少し乱獲は進行していない可能性が高いことが示された。この結果を基に、2013～2015年の間のTACを400トンとすることが合意された他、スポーツフィッシングや沿岸漁業に関する新たな管理方策が策定された。

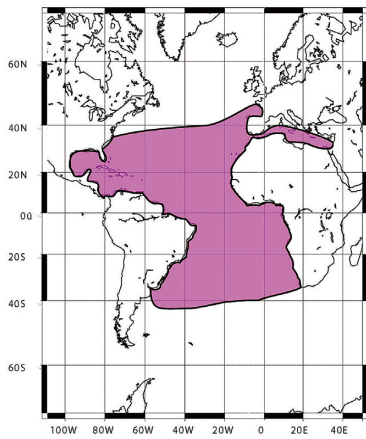
**生物学的特性**

ラウンドスケールスピアフィッシュは2006年に新種として記載されたため、これ以前に行われた本種の生物学的研究は、ラウンドスケールスピアフィッシュの標本混入により歪められていると考えられる。

- 寿命：不明
- 成熟開始年齢：不明
- 産卵期・産卵場：春、熱帯域
- 索餌期・索餌場：夏、温帯域
- 食性：恐らく魚類、イカ類
- 捕食者：不明

**利用・用途**

刺身、寿司、切り身（ステーキ）、マリネ。



本種の分布

**漁業の特徴**

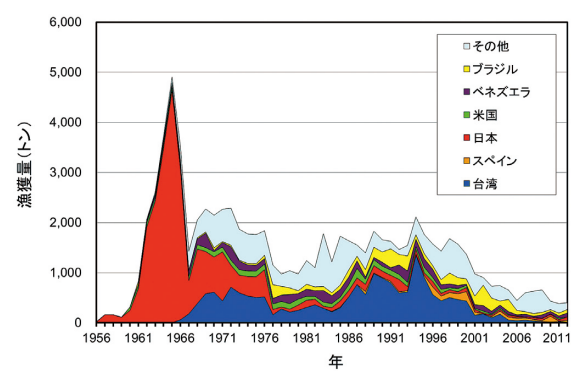
最近本種に外見が極めてよく似たラウンドスケールスピアフィッシュ (roundscale spearfish, *Tetrapturus georgii*) という新種の存在が確認され、ニシマカジキの報告漁獲量の中に本種の漁獲が含まれていることがわかった。今後はニシマカジキとラウンドスケールスピアフィッシュの漁獲を分けて報告することがICCATで奨励されている。しかしながら、ICCATのニシマカジキの漁獲統計は現在までのところこの2種を一緒に計上している。

**漁業資源の動向**

本種の総漁獲量は1960年代に約5,000トンまで達した後、1970年代に2,000トン前後に急減し、2000年までの間に1,000～2,000トンの間で推移した。その後総漁獲量は緩やかな減少傾向を示し、2009年までは600トン前後で推移したが、2010年以降再び減少し、2012年は暫定値ながら403トンと報告されている。本種の漁獲の大半はえ縄漁業によるものであり、1980年代半ば以降は北大西洋での漁獲が、北大西洋を上回っていたが、2010年からは北大西洋の漁獲量がやや多くなっている。資源解析に用いた漁獲量には、他種情報の混入という問題に加えて、報告漁獲量の減少という問題があることが指摘された。2002年から、生きて漁獲された個体の放流という規制措置が導入され、報告漁獲量が2002年以降減少した。これにより、2002年以降の漁獲死亡係数が減少する結果となったが、生存放流個体の一部は放流後に死んでしまい、これらの死亡が資源解析結果に反映されないと考えられるので、資源解析結果は、2002年以降の死亡率を低く見積もっている可能性が高いと推測される。

**資源状態**

資源解析の結果は不確実性が高いものの、資源がこれまで高い漁獲圧を受け、乱獲状態ではあるが、現在は漁獲圧も減少し過剰漁獲にはない可能性が高いことを示していた。漁獲死亡係数は10年前から減少しており、現在の漁獲死亡係数の水準は $F_{MSY}$ よりも低くなっている可能性が高いが、資源量はいまだに $B_{MSY}$ よりも低くなっていると考えられる。また、プロダクションモデルと統合モデルでは資源の生産性の推定値が異なり、後者の方が前者と比べて資源の回復が早いという結果になったが、現有の情報ではどちらの結果も同程度の確率で起こりうるとされた。これらの結果は、報告された漁獲量がニシマカジキの漁獲死亡を正しく反映している仮定によっているが、生存放流個体の死亡率が高かったと仮定した場合は、推定される資源状況は悲観的になり、現在でも過剰漁獲の状態にあることを示した。



国別漁獲量

管理方針

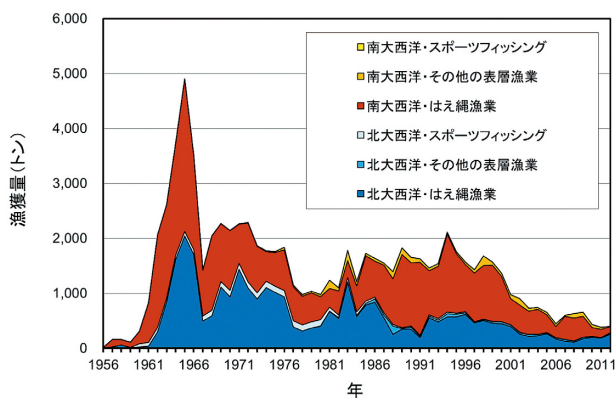
新しく行われた資源評価結果を受けて、大西洋のニシマカジキ資源に対しては、2013～2015年の間のTACを400トンとすることが合意された。この間の日本の割り当て漁獲量は年間35トンである。また、割り当て量の消化が近づいた場合には、生きて漁獲された個体をできるだけ放流後の生存率が高くなるように放流することが勧告された。また、資源解析・評価の実施に当たって問題となった、生存放流及び死亡投棄個体数の推定方法の報告も併せて勧告された。さらに、ニシマカジキは、はえ縄やまき網といった規模の大きな漁業の他に、スポーツフィッシングや沿岸漁業によっても漁獲されているので、スポーツフィッシングについてはオブザーバーの乗船(カバー率5%)、サイズ規制と売買の禁止が、沿岸漁業については漁獲データの収集が勧告されている。

資源評価まとめ

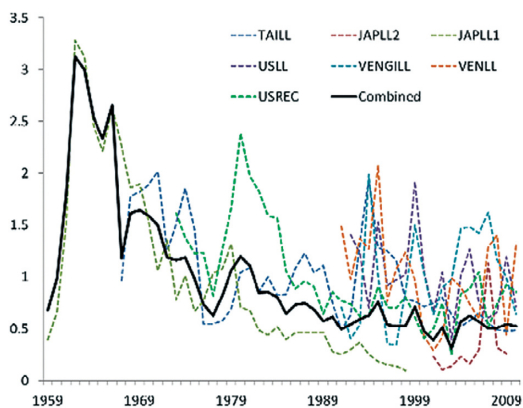
- 資源評価はICCATのSCRS(調査統計委員会)において実施。
- 資源は恐らく低位微増。

資源管理方針まとめ

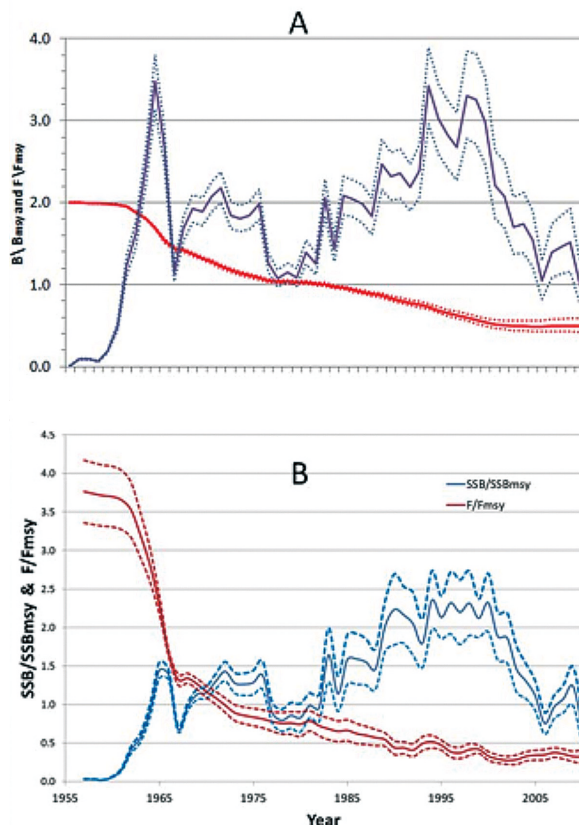
- 資源水準をMSYレベルに回復させる。
- 2013～2015年の間のTACを400トンとする(日本の割り当ては35トン)。
- はえ縄・まき網における漁獲量は1996年か1999年の水揚げ量の多い方の33%以下に抑える。



海域別・漁業種類別漁獲量の年推移



破線は個々の資源量指数を、黒実線はそれらを1つに併せた資源量指数を示す。



推定された相対資源量(青線)及び相対漁獲死亡率(赤線)の歴史的推移上図はプロダクションモデルの、下図は統合モデルの結果を示す。資源量及び漁獲死亡率はMSY水準に対する相対値として示してある。相対資源量は、プロダクションモデルでは総資源量、統合モデルでは産卵親魚量に基づく推定値。

ニシマカジキ(大西洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	低位
資源動向	低位微増
世界の漁獲量* (最近5年間)	384～656トン 平均:502トン
我が国の漁獲量* (最近5年間)	31～68トン 平均:43トン

\*漁獲量には、いずれもラウンドスケールスピアフィッシュの漁獲が混入していると考えられる。